



主将の一発波乗る

後半残り16秒、1点を追う仲西がタイムアウト。神谷加代子監督から「最後まで自分たちのハンドをやってこい」と送り出された選手たちは前へ走った。残り4秒、ゴール前中央でパスを受けた浦崎春菜が「自分がいくしかない」と、切れ込んで千金のベナルティーをもらう。チームの命運が懸かった7びっスローを任されたのは主将の渡久地美音。後半女子決勝・仲西―浦西 前半、ゴール前に攻めこむ仲西の渡久地美音(右)――浦添市民体育館(伊藤桃子撮影)

後半残り16秒、ゴール右隅を狙ってGKにセーブされたのを思い起こした。「逆の左隅を狙った。緊張したけど、何が何でも決めるつもりだった」。主将の気持ちの一発で追いついた仲西が、勢いに乗って延長戦をものにした。

二段一段、階段を上るごとに成長したと神谷監督。準々決勝では、最大8点差をひっくり返した。たくましさを増した選手たちは、全国切符を懸け九州大会に挑む。渡久地主将は「九州でも走って、出るからには優勝したい」と息をはずませた。(大門雅子)

仲西アベック優勝

ハンドボール

▽男子準決勝

仲西 30
17 13
13 16
29美

▽同決勝

仲西 28
15 13
12 11
23神

神

森 33
14 19
12 7
19安慶田

▽女子準決勝

仲西 21
13 8
4 3
7具志川

▽同決勝

浦西 19
11 8
11 6
17宮里

走り勝ち頂点

○今年に入って新人、春季と県大会を制している仲西が、夏も頂点に立つ

仲西	21	8	7
延長	7	8	
浦西	18		
西	3	2	

た。決勝は個人技のある神に対して走力で上回った。森に対し走力で上回った。又吉清登や伊倉登博武らが速攻でゴールネットを揺らし、神谷加代子監督は「これまで走り込んできた努力が実った」と満足げだった。

準決勝の美東戦は、終盤追いつき、屋比久浩之がパスカットからの速攻を決めた。

て1点差で勝利した。「前半、足が止まって運動した攻撃ができなかった」(屋比久)という反省点は、決勝でしっかりと修正した。

春の全国大会は、優勝した大田付(大阪)に準々決勝で惜敗。忘れ物を取りにくくためにも、まずは九州で男女優勝(神谷監督)を狙う。



男子決勝・仲西―神森 後半、中央からシュートを放つ仲西の又吉清登